東京新聞　12. 4

『蓮池薫さんとの40分間』

中大学内誌で拉致問題特集

『救う会』の渡部代表が面会　学生の関心高まる

兄透さん、12日に講演会

朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）の拉致被害者・蓮池薫さん(四五)の母校中央大＝八王子市東中野＝は、学内誌「Ｈａｋｕｍｏｎちゅうおう」で拉致問題について異例の大型特集を掲載した。「北朝鮮に拉致された中大生を救う会」代表の渡部一実さん(二三)＝法学部四年＝が、帰国直後に実現した蓮池さんとの面会の様子を紹介している。発行元の同大広報課は「中大生が蓮池さんを中心に拉致問題を考え、関心を共有する機会になれば」と話している。

10月16日、蓮池薫さん（左）と握手を交わす渡部さん＝「救う会」のホームページから

渡部さんが蓮池さんと会ったのは帰国二日目の十月十六日。「将軍様という言葉が出てくることも覚悟していた」と振り返る。

その日の深夜、頭の中で覚えている限りをメモしたものが、今回の学内誌の原稿になった。

「蓮池薫さんとの40分間　彼が語り続けた全内容」と題された記事は、一問一答形式で面会の雰囲気を再現している。

「ふだんはマージャンばかりやってた」と、笑いながら学生時代を語った蓮池さんと、渡部さんらに缶ジュースを振る舞った（旧姓奥土）祐木子さん(四七)の様子…。

日本に戻ったばかりでまだ言葉を慎重に選んでいた蓮池夫妻だが、先日、北朝鮮に残してきた子どもについて「日本で会いたい」と明言。渡部さんは「勇気のある人」と、尊敬の念を抱く。

救う会の活動を始めたころはビラを受け取る学生は少なかったが、今は学内の関心の高まりを肌で感じるという。

学内誌の特集では、ほかにも同大の学生記者による蓮池さんをめぐる拉致事件のルポや、学籍回復問題についての記事が掲載されている。

渡部さんは今月七日、蓮池さんの実家を訪ねビデオレターを作成する。蓮池さんのメッセージが込められたビデオレターは、同大で十二日に行われる兄透さんの講演会で上映される。

問い合わせは同大広報課＝電０４２６（74）２１４６＝へ。